



Title	逃婚歌集錦3
Author(s)	渋谷, 瑞江
Citation	北海道大學文學部紀要, 47(2), 1-20
Issue Date	1998-10-23
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/33722
Type	bulletin (article)
File Information	47(2)_P1-20.pdf



[Instructions for use](#)

逃婚歌集錦 3

渋谷 瑞江

ここでは、トゥ（土）族とオロチョン（鄂倫春）族の歌を取りあげた。この二つの民族は、逃婚歌を採集した 15 民族^{*1}のうちでは異色の民族といえるだろう。これ以外は西南地域に居住する民族である。これに対して、トゥ族は西北部の青海省、オロチョン族は北方の黒竜江省に主に居住している。言葉の面からも、ほかの民族はほとんどがシナ・チベット語族に属しているのに対して、アルタイ語族に属している。

トゥ（土）族

青海省、なかでも西寧市互助土族自治県に集住し、一部甘肅省にも居住する。アルタイ語族モンゴル語派のトゥ語を話し、人口は 1990 年の時点で 19 万人あまり。モンゴル帝国時代の軍隊が定住してその祖先となったといわれる。現在は、農業を主な生業とする。

イスラム教を信仰する民族のただなかに住むが、ラマ教（チベット仏教）を信仰するモンゴルの意識の強い民族である。ラマ教を信仰していることもあり、言語の面でチベット語の影響が見られるという。民間伝承の面でも、チベット風の悲恋物語^{*2}が伝承されているなど、チベット文化の影響がみられる。一方、「花児（ホアル）」と呼ばれる、周辺のイスラム教を信仰する民族や漢族と共通の歌謡を伝承しており、チベット文化、イスラム文化、漢民族の文化の接点に位置する民族ととらえることもでき、興味深いものがある。

1958 年『民間文学』第 8 期に掲載された「土族逃婚調」と、1965 年同じく『民間文学』の第 4 期に掲載された「土族逃婚歌（青海土族民歌）」の二つの歌を集めることができた。

オロチョン（鄂倫春）族

興安嶺の山中に居住し、トナカイを飼い、狩猟生活を営んできた人々。現在では定住化が進んでいるという。中国以外にも、モンゴルやロシアにも居住する。アルタイ語族ツングース語派のオロチョン語を話し、人口は1990年の時点で7千人ほど。

短いものだが二つの歌を集めることができた。1963年『民間文学』第6期に掲載された「逃婚調」と、1980年『鄂倫春民間文学選』に掲載された「逃婚」である。リストには『中国地方歌謡集成』（1990、渤海文化出版公司）の「逃婚」が挙げてあるが、これは『民間文学』の「逃婚」をそのまま転載したものである。

ここで取り上げた歌は、他の民族と較べると全く違ったものである。他の歌はすべて相手があつて駆け落ちをするという筋書きなのだが、オロチョン族のものだけが、押しつけられた結婚を嫌って逃げた先で出会った相手と結ばれるという筋なのである。一方、オロチョン族には「烏娜傑逃婚」という物語があり、こちらは想いあつてはいるが障害があつて結ばれない男女が駆け落ちをして最後は大団円となる物語である*3。

注

- ☆1：渋谷瑞江「逃婚歌集錦1——リス族「逃婚調」」（『北海道大学文学部紀要』45-3, 1997.3, pp.166-170）、駆け落ちのうたリスト参照。
- ☆2：トゥ族で広く伝承されていた話で、ここで取り上げた歌の中にもこの物語の主人公が歌われている。後出の「逃婚調」の原注5はそのあらすじである。『土族撒拉族民間故事選』（1992、上海文芸出版社）にも「拉仁布和琪門索」（pp.133-145）という題名で掲載されている。その末尾の「附記」に、1960年代から4種類の作品が発表されたと記されている。
- ☆3：注1のリストに掲載したものは、隋書今整理『鄂倫春族民間故事』（1980、黒竜江人民出版社, pp.127-138）からの転載である。

トウ族

a. トウ族逃婚調

許英国 搜集

民間文学 1958 年第 8 期 pp.72-75

男：門前頭的咕咕鳥*¹ 兒呀，
已經喊了好幾遭，
牆根裏的山楊呀，
也抽出了綠油油的嫩苗苗。

門前のカッコウは、
すでに何度か鳴いている、
垣根のそばの柳の木も、
つややかな若緑の芽をふいている。

十六七の大姑娘哟，
你怎麼心上不急躁？
難道你看不見草木發了芽？
難道你忘記了春天已來到？

十六七の年頃の娘さんよ、
あなたは心せかないのかい？
草木が芽吹いたのを見ないわけではあるまいに？
春がきたのを知らないわけではあるまいに？

女：園裏的厚冰雖說消了，
牡丹的枯枝兒還老，
就在這個時候裏，
我早盼望着春天快些到。

庭の厚い氷はとけても、
牡丹の枝は枯れたまま、
こんな時節には、
春が早くやって来ないものかとおもうもの。

十八九的哥哥哟，
我的心思唯有天知道！
難道我不知道愛惜青春？
難道我想望在河納吉*² 上要添上幾個道道*³？

十八九のにいさんよ、
わたしの心は天だけがご存じです！
青春の日々を惜しまないはずがありませんか？
額に皺が刻まれるのを誰が望みましょうか？

男：我不愛金山，

わたしは金の山は好きじゃない、

我不愛銀河，
我不愛牆高屋深，
我更不愛什麼富窩*⁴。

銀の川は好きじゃない，
塀が高くて庇が深いのも好きじゃない，
金持ちはどんな奴でも好きじゃない。

我愛的只有一個人：
她的性情格外溫和，
她對愛情的忠實就像吉然索*⁵，
姑娘喲，只有你呀才能配得過！

わたしが愛するのはただひとり：
そのひとのこころはことのほか穏やかで，
愛に一途なさまはまるでチイランスオのよう，
娘さん，あなただけだよ，こんな人は！

女：我不挑他家道旺，
我不挑他財產多，
我不挑他太麻利*⁶，
我不挑他嘴會說。

わたしはその人の家格につりあわない，
財産の額につりあわない，
賢さにつりあわない，
能弁さにつりあいはしない。

我挑的人兒是：
能够老老實實的做活，
能够像阿竜布一樣的對待我。
哥哥喲！站在我面前的人我就情投意和。

わたしにつりあっているのは：
ほんとうのことを話してくれるひと，
アロンブのように接してくれるひと。
にいさん/わたしの前に立っている人こそこころの通いあう人なのです。

男：白天過了黑夜來，
黑夜來哈心兒裏慌，
多天來聽不見妹妹的好回話，
半天的日子比十年長。

昼が過ぎて夜がくる，
夜がくると心は乱れる，
もう幾日もいもうとの声を聞いていない，
わずか半日が十年にも感じられる。

難道妹妹你把我忘？
難道妹妹你半路上變了心腸？
不！妹妹的話比金子還貴重，
無論到啥時候一定有指望。

いもうとよ，よもやわたしを忘れたわけではあるまい？
道半ばにして心変わりしてしまったわけではあるまい？
いいや/いもうとのことばは金よりも価値がある，
何かあったらきつと知らせてくれるはず。

女：整天個好比座針毯，
昏昏沈沈胡思想，
害人的耶洛*7 多了嘴，
把狗糞說成上等好麝香。

我不管他說的天花轉，
我不管他油嘴抹上糖，
我的靈魂早已給了人，
鋼槍馬刀怎能來堵擋。

男：我端上飯碗兒把個筷子忘，
我去鋤草反而把鋤鞋抬上，
我過河不知道把鞋脫，
我看見月亮的光氣兒當太陽。

我的心思比那菜子顆顆兒碎，
我的腦子比那筏子皮袋還膨脹，
妹妹呀，我不怨你来但怨二爹娘，
為啥把賊耶洛的騙話兒看得那麼香？

女：賊耶洛喝了我家的湯，
叫他子孫三代害嚟癩；
賊耶洛吃了我家的飯，
叫他一時三刻把腸子斷！

我不吃饅饅*1 我不喝湯，
我不穿衣裳我不下炕。
哥哥喲，烈火坑裏我跳裏，
刀山尖上我也要上。

一日中織りかけの絨毯の前にすわって、
あれやこれやと思ひ惑う、
おせっかいな仲人は口がじょうずで、
犬のフンだって上等の麝香にしてしまう。

わたしは天から花が降るようなはなしは信じない、
次から次へと出てくる甘いはなしは信じない、
わたしのころはもはや想い人のもの、
槍でも刀でも止めることはできない。

わたしは茶碗は持ってきたけれど箸を忘れた、
押し切りで草を切ろうとしてシャベルを持ってきてしまった、
川を渡るのに靴を脱ぐことを知らなかった、
わたしは月の光を太陽と勘違いしていた。

わたしの心は菜種つぶのように粉々で、
脳みそは筏につける皮袋みたいにからっぽだ、
いもうとよ、わたしはあなたの父さん母さんが恨めしい、
どうして仲人の口車に乗せられてしまうんだい？

仲人はわたしの家のスープを飲んでしまいました、
孫子の代までのろってやる；
仲人はわたしの家のご飯を食べてしまいました、
絶対に許せない！

わたしはモモも食べなければスープも飲みません、
着物も着なければオンドルに座ることもしません。
にいさん、燃えさかる火の中でも飛び込みます、
刀の山だって登ります。

男：黒風兒刮着天气兒變，
一陣陣天也昏來地也暗，
六月的河灘裏凍了水，
三伏の庄稼霜殺干。

黒い風が吹いて空模様が変わる，
またたく間にあたりが暗くなる，
六月だというのに川は凍り，
三伏だというのに作物には霜の害。

我不怕它天爺塌來地開口，
我不怕他四季顛倒皇上家的江山乱，
我只怕棒打鴛鴦兩分散，
思想起妹妹心痛爛。

わたしは天が降ってきてても地が裂けても怖くはない，
季節がひっくり返ってお上の山や川がどうなろうと知ったことじゃない，
ただおしどりが棒で打たれて別れさせられるのだけが心配だ，
いもうとのこころの痛みが気がかりなのだよ。

女：我一只脚在陽間一只脚在陰槽，
我眼前死路多來活路少！
哥哥哟，我陽世之間難見你的面，
死掉了也要變双鳥。

わたしの脚は片方がこの世でもう片方はあの世にあるのです，
目の前には死への道ばかり多く生き残る道は少ない！
にーさん，この世であなたに逢うことはままなりませんでしたが，
死んだ後には双つ鳥になりましょう。

太陽落了月兒上樹梢，
再等上一刻生怕鷄兒叫，
我左思右想只有一条路，
要找我情哥哥同他把婚逃。

陽が落ちて梢に月がかかりました，
これ以上待っていても鷄が鳴いてしまう，
わたしはただひとつの道に思いをはせる，
いとしいにさんと一緒に駆け落ちしよう。

男：我脱掉皮襖戴上尢氈帽，
腰窩裏再別上一把滿尺刀，
往妹妹的墻根裏走一遭，
看一看水色*⁸了把墻跳。

裏毛の上着を脱いで古い毛皮の帽子をかぶり，
腰にはもう一振り長刀をさす，
いもうとの家の垣根までやってきて，
背伸びして様子をうかがう。

不睜眼的哈巴兒*⁹偏要叫，
一急了樹枝兒也声高，
脱下我的靴子淨脚兒跑，
見一見妹妹死就心甘了。

目も開かない子犬が吠える，
人と見るとますます吠え盛る，
わたしは靴を脱ぎ捨ててじゃれつかせる，
いもうとに一目逢えたら死んでもかまわない。

逃婚歌集錦 3

女：房子裏座的是娶親的人，
院子裏圍的是跳舞*¹⁰的人。
我擦掉眼淚陪笑臉，
支開了家裏伴我的人。

打開箱子撿一身衣，
夾主襖*¹¹兒披身上，
我人前頭裝作上毛坑*¹²，
一不見扁巴郎*¹³身子溜出了門。

男：我捂住嘴兒不敢喘一口氣，
我扯長耳朵仔細聽，
離鷄叫的時候再不遠，
咋聽不見妹妹哭叫声！

搵*¹⁴起了袖子手攀住樹，
抽出個刀子往房上奔。
猛聽見一陣怨腸聲，
真像是妹妹的叫苦聲。

女：出來大門一看黑洞洞，
我弁不出那是西來那是東。
怨一聲哥哥你忘了我，
妹到了難中你咋不救命！

我挨着牆根摸着行，
看不見路兒氣死人。
哥哥喲，你好比神仙來把我渡，
我轉上八輩子記住你的恩。

家の中に座っているのは嫁迎えにきた人，
庭にいるのはわたしの嫁入りを踊りで見送ってくれる人。
わたしは涙をぬぐって笑顔を作り，
言い訳をして人々から離れる。

箱をあけて着物をあらため，
綿入れの短衣を着る，
手洗いに行くふりをして，
人々を欺いて門から抜け出す。

わたしは息を殺し，
耳をそばだてる，
鶏が鳴くのも間近だというのに，
いもうとの泣き声は聞こえない！

腕まくりして木に登り，
刀を抜いて屋根に飛び移る。
たちまち一陣の恨みの声がする，
いもうとの苦しみの声そのものだ。

門を出て真っ暗闇の中を見る，
西も東も分からない。
にいさんあなたはわたしを忘れてしまったの，
いもうとが難儀しているのにどうして助けにきてくれないの！

わたしは垣根にそって手探りですすむ，
息を殺して待つはずの人はいない。
にいさん，神様みたいにわたしを救いにきて，
そうすれば一生涯あなたの恩は忘れない。

男：一聽見妹妹的声音我狂跳，
心上的疙瘩兒冰消了，
妹妹喲，你別怨腸我来遲，
我来的比你更要早。

いもうとの声を聞いてわたしは飛び上がるほどうれしい，
心のかさぶたはすっかり消えてしまった，
いもうとよ，遅れたことを許しておくれ，
あなたより先に来なければならなかったのに。

女：半夜三更往外逃，
嘴裏冒烟心兒又乱跳，
猛聽見哥哥叫一声，
我好像成了神仙上雲霄。

真夜中に駆け落ちする，
のどはからからで心は早鐘を打つよう，
にいさんの声を聞いて，
わたしは神様になって空に昇るような気分。

男：手抓住妹妹泪水兒像乱麻，
有千言万語不知該說些啥。

引き寄せるといもうとの眼には涙があふれている，
さあどんなことでも話してごらん。

女：我抱住哥哥渾身兒抖，
没說一句話兒先喊幾個走！

わたしはにいさんに抱かれて，
話すことなど後回しにして先を急ぎましょう！

男：妹妹喲，丈八的繩子我不怕綁，
白蠟的杆子我能馱！

いもうとよ，八丈の繩に縛られるのは怖くない，
鉛の棍棒でも耐えられる！

女：哥哥喲，先燒到眉毛得救眼前急，
你說我倆兒跑到那裏去？

にいさん，先に目の前の火の粉をふり払いましょう，
わたし達がどこへいくの教えてくださいな？

男：妹妹喲，前是黄河後是崖，
看！一伙人又打上火把找你来！

いもうとよ，前は黄河の流れで後ろは崖，
ごらん，若いのが松明を掲げてあなたを探しにきた！

女：哥哥喲，我倆兒先跑到黄河口，
把花鞋擦在河辺再逃走！

にいさん，わたし達はまず黄河口へいきましよう，
刺繡の靴は河原にぬぎすてて逃げましよう！

合：黄河沿上把鞋擦，

黄河の河原に靴をすて，

手搭手兒往遠裏逃。	手に手をとって遠くへ逃げる。
天涯海角由我倆跑，	天の涯でも海の果てでもふたりは駆ける，
走上十万八千里哈誰知道！	十万八千里も行けば誰に知られようか！
我倆好比入海的竜，	ふたりは海に蹶った龍，
我倆好比出籠的鳥，	ふたりは籠から出た鳥，
天空任鳥飛，	鳥のように空を飛び，
海濶由竜躍。	龍のように海を駆けめぐる。

原注

- ★ 1：「咕咕鳥」とは、カッコウのことである。
- ★ 2：「河納吉」とは、額（ひたい）のことである。
- ★ 3：「道道」とは、顔のしわをさすことばである。
- ★ 4：「富窩窩」とは、金持ちをさすことばである。
- ★ 5：「阿竜布（男）と吉然索（女）」は、トゥ族に広く伝わる悲恋物語である。（ほかに美しい恋のうたもあり、トゥ族の人々が大変好むうたである。）物語の筋は以下のようなものである。以前、山に阿竜布（アロンブ）という羊飼いの青年が、里には美しい羊飼いの娘吉然索（チランソオ）が住んでいた。二人は知り合ってから、一年中一緒に楽しく歌いながら放牧をしていた。長い月日の間に、互いに想いあうようになっていった。二人は歌を歌いあって想いのたけを伝えあい、将来を約束した。二人は香草や欄の花をつみ、山頂で、天に向かってとも白髪を誓う「煨桑」を行った。

しかしアロンブの家は貧しく、暮らしの見通しは立たなかった。一方、チランソオの家はというと、逆に金持ちだった。彼等の噂がチランソオの嫂（あによめ）の耳に入ると、彼女は一計を案じ夫を挑発して二人の仲を裂こうとした。兄はずるい金持ちの典型で、妻の話聞き、たちまち計略を思いついた。彼はチランソオを家に閉じ込め、彼女の着物を身に付けて、刀を持ち山へ羊の放牧に出かけた。アロンブはそれを見破ることが出来ず、兄に刺されてしまった。アロンブはいまわのきわに、感きわまった声でチランソオに向けて歌った。「闇夜にチランソオの声が聞こえて、わたしはうれしい。話したいことは山ほどあるのにうまく言えない。わたしの命はわたしたちの愛情のためにある。……家の庭から煙がのぼったら、わたしが死んだしるし……」アロンブの傷は重く、次の日に死んでしまった。

チランソオはアロンブの火葬にやって来て、泣きながら歌い、金の首飾りや身に付けた衣服を火の中に投げ込んだ。そして最後にその身を炎の中に投げ込み一緒に焼かれてしまった。二人が死んだ後、火葬した場所から二本の柳の木が生えてきた。し

かしチィランスオの兄がそに木を切ってしまった。木が倒れようとしたとき、その根元から二羽の鳥が飛び出し、トゥ語で「二つの眼」と鳴いた。二羽の鳥はいつまでも一緒に空を飛び、永遠に離れなかった。

- ★6：「麻利」とは、有能の意味である。
- ★7：「耶洛」とは、仲人（なこうど）のことである。
- ★8：「水色」とは、様子をうかがうという意味である。
- ★9：「哈巴兒」は、子犬のことである。
- ★10：「跳舞」とは、トゥ族の習俗である。嫁入りの日に、親戚や友人、近隣の人々がやって来て、踊りを踊って送り出すというものである。
- ★11：「主襖」とは、短い綿入れの上着である。
- ★12：「毛坑」とは、便所のことである。
- ★13：「扁巴郎」は、ななめという意味である。
- ★14：「擗」とは、巻くという意味である。

訳注

- ☆1：「饅饅」は、「饅頭（マントウ）」に同じ。マントウは、味のついていない（あんの入っていない）まんじゅうのこと。

b. トゥ族逃婚歌（青海トゥ族民歌）

席永信 搜集

民間文学 1965年第4期 pp.126-130

男：石崖根里的白楊樹，	崖の柳の木には、
抽出了綠油油的嫩苗；	緑したたる若芽が吹いた；
毛吉*1 上的布谷鳥叫了，	マオチ山の郭公が鳴いて、
種田的時節到了。	田畑を耕す季節がやってきた。
妹妹啲，	いもうとよ、
你怎麼心里不着急？	あなたは気がせかないのかい？
難道你看不見草木發了芽，	まさか芽吹く草を見ていないんじゃないだろうね、
難道你忘了春天來到。	まさか春がきたのを忘れてるんじゃないだろうね。

女：春雪压不住嫩草芽，
春風吹不掉山里花，
陰山的白雪化成水，
陽山的青草露了芽。
正是這個時節喲，
我盼着春天來到。
難道我不知道愛情的青春，
難道我等着戴天頭*²。
哥哥喲，
我的心只有天知道。

男：我不愛金山，
我喜歡的是草山；
我不愛銀河，
我喜歡的是泉水；
我不看她長的俊來穿的好，
我愛的陽世上只有她一個。
她的心腸比得上切門素*³。
妹妹喲，
你才是我真正心上的人。

女：有錢有勢的我不愛，
有錢人沒有好心腸。
我心裏選上的人，
頭頂上沒有一間房，
腳底下沒有一塊地，
他的心好像拉仁布*¹。
姑娘家心裏的話呀，
不好意思說出。

春の雪は草の芽吹きを押さえきれず，
春の風は山里の花を吹き飛ばすことはできず，
北の山の雪が溶けて水になり，
南の山には若草が芽吹きました。
まさにこの季節こそ，
私が待ち焦がれていた春です。
私が愛の季節を知らないはずがありませんか，
私が戴天頭の儀式を待っているなどということがありませんか。
にいさん，
私の心は天の神様だけがご存知です。

私は金の山は好きじゃない，
私が好きなのは草の山；
私は銀の河は好きじゃない，
私が好きなのは澄んだ泉の水；
私は彼女がこんなに綺麗になるなんて思ってもみなかった，
私がこの世で愛するのは彼女ただ一人。
彼女の心はチエメンスウより美しい。
いもうとよ，
あなたこそ私から愛する人。

お金や勢力のある人は好きではありません，
お金持ちに心根の善い人はいません。
私が心をこめて選んだ人は，
頭の上には屋根もなく，
脚の下には一かけらの土地もない人，
でも心はランブのよう。
娘が自分の心をうちあけるときは，
とても恥ずかしいのです。

哥哥哟，
我心上選的只有你一個。

にいさん、
私が心をこめて選んだのはあなたなのです。

男：山裏的青草干了，
樹上的葉兒落了。
冬天的日子比夏天還長，
西邊的太陽為啥不動彈？
三天不見妹妹的面，
一天的日子比一年還長，
莫非妹妹你把我忘，
難道你變了熱心腸，
千思万想也心不甘。

山の草は枯れ、
木の葉は落ち尽くした。
冬は夏より長く、
西に傾いた太陽はどうして勢いが無いのだろうか？
三日いもうとに逢わないと、
一日は一年よりも長く思える、
いもうとよ何があっても私を忘れないでくれ、
あなたがその熱い心を変えたりしたら、
とても耐えられない。

女：一天的日子盼不黑，
黑夜裏盼不出明月亮。
誰知道青天裏出了黑雲彩，
誰知道山後狼等羊。
害人的若日娃*⁴ 来多嘴，
他把牛糞說成好麝香，
阿爸上了他的当。
我不管他說的天花轉，
鋼槍馬刀挡不住我，
鉄鏈捆不住我的心！
哥哥哟，
我身子投進了火坑。

この一日が暮れなければいいのに、
暗い夜に明るい月など出なければいいのに。
誰が青空に暗雲が湧き起こる事を知ってしましよう、
誰が山の裏側で狼が羊を待ち伏せているなんて思うでしょう。
お節介な仲人がやってきてまくし立て、
牛の糞すら麝香のように話す、
父さんはすっかりそれを信じてしまった。
私は仲人の甘い言葉なんか信じない、
鉄砲も刀も私を阻むことはできない、
鉄の鎖だって私の心を縛ることなんかできないのよ！
にいさん、
私は火の中にこの身を投じます。

男：我端起碗来把筷子忘，
我去鋤草手抬上銑，
我的心比菜子顆還碎。

私は茶碗は持って来だけれど箸を忘れた、
私は掌を押し切りにして草を切ろうとしている、
私の心は菜種の粒よりも細かく砕かれる。

刮起風來天氣變，
天也昏來地也暗，
我不管他天塌和地裂，
我不怕他皇上家的江山亂，
就怕我和妹妹兩分散。
妹妹啲，
一根鐵繩綁在你身上，
一顆心爛在我心上。

風が吹いて空模様が急に変わる，
空もあたりも真っ暗になる，
天が落ちようが地が裂けようが構わない，
お上の山や川がどうなろうと知ったことではない，
ただいもうと引き離されることだけが気がかりだ。
いもうとよ，
鉄の鎖であなたの身体を結び付け，
私の心の上であなたの心を輝かせたい。

女：若日娃吃了我家酒，
叫他一時三刻腸子斷。
他騙了阿爸的心，
他買了我的身，
我吃不下飯來喝不下湯，
我心裏有你就有胆量。
刀尖上我也上哩，
火炕裏我也上哩。
太陽剛剛落山，
納什金來到大門上。
我一只腳踏有人世，
我一只腳踏進九泉。
眼前是死路多來活路少，
哥哥啲，
從今難見你的面。

仲人は私の家の酒を飲んでしまいました，
地獄に突き落とされた気持ちです。
仲人は父さんをだまして，
私の身柄を買ったのです，
私は御飯も汁も喉を通らない，
私にはあなたがついていると思うと勇気が出てきます。
刀の切っ先だって私は登ります，
燃えさかる火の中だって私は飛び込みます。
山の端に陽が沈もうとしている，
結納が来てしまう。
私の片方の脚はこの世に，
もう片方の脚は黄泉の国にあります。
目の前には行きどまりの道ばかり，
にいさん，
これからはあなたにも逢えなくなってしまう。

男：天上的鳥兒双双飛，
山上的野鷄對對跑，
燒炕炕座的只有我一個。
天上的星星出齊了，

空を飛ぶ鳥はつがいで飛ぶ，
山の雉はつがいで走る，
でもオンドルの上に座っているのは私一人だけ。
空の星が出そろったら，

月亮還等不出來，
脫掉我的破皮襖，
戴上我的旧氈帽，
黑夜翻上几道嶺，
連夜趕到妹妹家。
心急了脚不往前走，
人慌了山頭也高了。
妹妹喲，
只要見你的面，
累死哥哥也心甘。

月はまだ出てこないうちに，
裏毛の上着を脱ぎ捨てて，
古い毛皮の帽子を頭に載せて，
暗い夜に乗じて山道を走り，
毎夜いもうとの家へ行く。
心せいて足ももつれる，
心せく程に山の頂きはいや高くなる。
いもうとよ，
あなたに一日逢うためならば，
どんな苦労もいといはしない。

女：円槽上栓の棗紅馬，
納什金端酒找鞍子，
糧斗上阿爸綁起了紅筷子，
油灯上阿媽点起了双捻子。
眼泪流在地上，
我収不回来，
痛苦装在心裏；
我説不出来，
晴天裏盼雨白盼哩。
哥哥喲，
今晚夕盼你盼干哩。

飼い葉桶に栗毛の馬が繋がれている，
結納金で酒と馬の鞍がもたらされた，
父さんが升の上に紅い箸をくくりつけ，
母さんが二本の灯芯に火をともし。
涙が流れおちる，
私はもう後戻りすることはできない，
心の中は苦しみでいっぱい；
私は話すこともできない，
晴れた日に雨を望んでもそれはかなえられないこと。
にいさん，
今晚あなたが事を起こして下さいを願っています。

男：野鷄飛進馬蓮灘，
馬蓮花遮住了野鷄，
只聽見它的叫声，
看不見它的身影，
如今你好像高園中的牡丹，
只聞見香味看不見花。

雉がネジアヤメ^{☆2}の茂みに飛びこむ，
ネジアヤメの茂みは雉を隠し，
ただ鳴き声が聞こえるだけで，
その姿は見えない，
今のあなたはまるで高い園の中での牡丹の花，
ただ香りが漂うだけで花は見えない。

莫非你見了錢財把我忘，
難道前世裏我倆沒姻緣？
天上的織女，
地下的牛郎，
喜鵲姑娘搭起了天橋，
天河邊上他倆相見；
今晚夕我倆本來不遠，
就是不能相見。
妹妹喲，
不是你家的牆高，
就是你家的狗厲害。

女：月光光照在窻子上，
我只当了日頭出了山，
阿媽拿起了上馬婆子。
我一肚子苦水沒處吐，
要是老早戴了天頭，
如今也到不了這一場。
拔草的時候，
我不怕太陽熱，
碾場的時候，
我也不怕冷風吹，
我怕的是阿爸的厲害。
哥哥喲，
生成個女子真可憐。

男：城牆上跑馬路不通，
今晚夕叫你永不通，
心裏的山歌唱不出來，

沢山の財産を見せられても決して私を忘れないでくれ、
私たち二人に前世の因縁が無かったなんてことはあるまい？
天の織女神も、
地の牛郎神も、
カササギ^{☆3}が天に橋を架け、
天の川でめぐり逢う；
今夜の私たちは離れているわけではないのに、
逢うことができない。
いもうとよ、
あなたの家の塀が高いのではなく、
あなたの家の犬が問題なのだよ。

月が窓辺を照らしている。
私は山の端から陽が昇ったら、
母さんに馬の背に乗せられる娘。
私にはお腹の中の苦い水を吐きだす場所もない、
もっと早く天の神様にお願いしていたら、
こうはならなかったでしょう。
草取りの時には、
どんなに陽が照りつけても平気だけど、
脱穀の時には、
どんなに風が冷たくても平気だけど、
ただ父さんが怖いだけ。
にいさん、
女に生まれるのは本当に哀しいこと。

城壁の道は通れない、
今晚はあなたを呼んでも通じない
心のうちの山歌[☆]は歌えない、

話到口辺說不出来，
想見妹妹難上難。
妹妹啲，
你死了我也活不了，
不管老天爺給啥命，
闖下啥禍哥哥当。

女：樹上沒有樹枝，
喜鵲搭不成窩，
河裏沒水，
魚娃兒命難活。
想起哥哥心象刀子刮，
一轉轉起来穿衣裳。
人前頭装着上茅房，
人不見便悄悄溜門走。
哥哥啲，
你今天好好把我救，
我八輩子忘不了你的恩。

男：天上的雲彩来来往往，
太陽照常亮哩，
夏天的日子雖然好長，
日頭總要落山哩。
阿哥見了妹妹面，
心裏的冰疙瘩消哩，
你甯怨我来的遲，
我從天黑等到天快亮，
千言万語說不尽，
搵上衣裳把路趕。

喉まで出かかった言葉も出てこない，
いもうとをおもえばおもうほどつらくなる。
いもうとよ，
あなたが死んでしまったら私も生きては行けない，
天の神様がどんな運命を与えていようとかまうものか，
災いは私が受けてたとう。

木に葉が茂っていなければ，
鶯は巣を作ることはできません，
河に水がなければ，
魚の子は生きていけません。
にいさんの心をナイフで切りとって，
くると巻いて着物の下に隠したい。
厠に行くふりをして，
人の見ていない間にこっそりと逃げましょう。
にいさん，
今日こそ私を救って下さい，
このご恩は決して忘れません。

空の雲はやって来てはまたかえっていく，
お日様はいつでも明るく輝く，
夏の日は長いとはいうものの，
陽はいつか山に落ちる。
私はあなたの顔を見ると，
凍った心も融けていくようだ，
遅れたことを恨みに思わないでおくれ，
日暮れてから夜明けるまでかかっても，
千の言葉万の語句でも語り尽くせない，
荷物をまとめて出発しよう。

逃婚歌集錦3

女：冬天穿上皮襖，
不要忘掉擋羊人。
我們逃婚的時候，
不要忘掉追趕的人，
上山山也高，
下川河也寬，
我倆跑到黃河邊，
花鞋丟在河邊上，
再爬上崖根的山羊路。

冬に裏毛の外套を着るときには、
羊を屠殺する人の事を忘れてはなりません。
私たちが駆け落ちをする時には、
追手の事を忘れてはなりません、
山に登れば山はいや高く、
河を下れば河幅はいや広い、
私たちは黄河のほとりまで行って、
河邊に靴を脱ぎずて、
そして崖を縫う山羊の道を登りましょう。

合：前世裏我倆有緣，
今世裏遇了，
只要我倆在一起，
身子爬在冰灘上，
心裏比燒炕還熱。
翻過一嶺又一灣，
走過一嶺又一川，
只要我倆在一起，
跑到天邊不嫌遠。

私たちには前世の因縁があった、
そしてこの世で出会った、
二人が一緒でさえあれば、
この身は水河の上にあっても、
心はオンドルよりも熱く燃える。
峰を一つまた一つと越え、
河を一つまた一つと渡る、
二人が一緒ならば、
天の涯でも遠しとしない。

原注

- ★1：「毛吉」とは土族の神山である。
- ★2：「戴天頭」とは土族の習俗である。天を夫とみなし、夫がいなくても結婚したと同等にみなす^{★4}。
- ★3：「切門素」は民歌の中の主人公の名である。彼は「拉仁布」とともに封建的な結婚に反抗する。
- ★4：「若日娃」は、仲人の意味である。

訳注

- ☆1：原注2参照。ラレンプとチエメンスウの物語については、前出a。「土族逃婚調」の原注5参照。
- ☆2：馬蓮，アヤメ科の多年草。和名ネジアヤメ。学名は *Iris ensata*。
- ☆3：「カササギ」，原文「喜鵲姑娘」。牽牛織女の物語では，織女が天の川を渡るときに鵲（カササギ）が橋になるという説がある。ここではカササギを女神のように設定して「喜鵲姑娘」と名付けたと思われる。（七夕伝承については，小南一郎『西王母と七夕伝承』（1991，平凡社）などに詳しい。）
- ☆4：トゥ族の婚姻習俗（成女式とする解釈もある）。旧時，女子が15才（18才とする報告もある）になると，親が主宰して大晦日の晩に天を夫と見立てて結婚するという習俗である。これ以後女性の性生活は自由となり，男性と同居し，子育てをして一家をなすことができる。（青海省編輯組『青海土族社会歴史調査』（1985，西寧人民出版社）・敵汝嫻主編 江守五夫監訳『中国少数民族の婚姻と家族』中巻（1996，第一書房）など参照）

オロチョン族

a. 逃 婚

烏相葛唱 関守中・暴俠搜集

『民間文学』1963年第6期 p.89

『中国地方歌謡集成 59 東北九省児歌民歌情歌』

渤海堂文化出版公司 1990年 pp.278-279

在甘河，有百戸人家住着，
爹娘把我許好多次，
哪一回我都没有認可。
爹娘生气了，打我罵我，
我再也忍受不下去，

甘河には，沢山の人が住んでいる，
父さん母さんはいつも私の言うことを聞いてくれたのに，
今回だけはどうしても納得できない。
父さん母さんは怒って，私をぶちそして罵る，
私はもう我慢できない，

逃婚歌集錦 3

領上胞妹離開了甘河。

妹を連れて甘河から逃げだそう！

順着大河往上走去，
從日出跑到日落，
翻過了大興安嶺，
來到了急流的諾敏河。

大河を遡って，
日の出から日の入りまで走ったら，
大興安嶺までたどり着き，
諾敏河の急流までやって来た。

在諾敏河下游地方，
住着親兄弟兩個，
哥哥叫溫吉托，
弟弟叫奔吉托。

諾敏河の下流には，
兄と弟が住んでいた，
兄の名はウチト，
弟の名はバンチト。

我們姐妹看中了他們兄弟，
他們也留我們一起過活，
明知道官家不許這樣做！

私たち姉妹は兄弟に一目惚れ，
彼らも私たちと一緒にになりたいという，
お上がこんなこと許さないのは知っている！

大山大河沒攔住，
怕死就沒有好生活，
沒有半壺燒酒當財禮，
我們的胖娃娃也挺多。

高い山や大きな川には囲いはない，
いい暮らしは出来ないかもしれない，
壺半分の酒も蓄えられないかもしれない，
でも私達には丸々とした赤ん坊が沢山。

b. 逃 婚

黒河文化局搜集

『鄂倫春民間文学選』張鳳鏞・蔡伯文整理

內蒙古人民出版社 1980年 p.145

天邊飛來一片烏雲，
阿曼* 要我嫁給無緣的人。

空には一片の黒雲，
父さんは私を見知らぬ人に嫁がせようとしている。

北大文学部紀要

喜鵲落在白樺樹上，
有情的人兒我才看得上。

カササギは白樺の木に住む，
想いを寄せてくれる人でなくては。

海驢馬跑起來象風一樣，
我要和心上人飛向遠方。

海驢の馬は風のように駆ける，
私は想い人と一緒に遠い所へ飛んでいこう。

原注

★ 阿曼：オロチョン語で父親の意味。